

平成24年度文部科学大臣表彰「子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）」
受賞報告会

- 1 開催日 平成24年5月17日（木）
- 2 会場 高知県庁西庁舎2階教育委員室
- 3 子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）
優秀校 高知市立一宮小学校
南国市立香長中学校
高知県立高知西高等学校
優秀図書館 四万十市立図書館
優秀団体（個人） 市原 麟一郎

4 取り組み

①高知市立一宮小学校

一宮小学校は、「あかるい たのしい 学校図書館～
知りたい！わかりたい！本はともだち！～」を学校図
書館活動のテーマに掲げ、児童の読書に親しむ態度や
読書意欲を育むとともに、地域の人々との交流を通し
て豊かな表現力などの伝える力も身に付けている。

〈特色のある優れた実践活動〉

ア. 朝の10分間全校読書「よむよむタイム」における

保護者や図書委員会の児童による読み聞かせ活動

イ. 全教職員による読み聞かせ活動「わくわくお話タ

イム」では、低・中・高学年別で本の題名等により全校児童が読み聞かせを聴く場所
を選択し、お話を聴く活動

ウ. 2年生が毎年10月に「お年寄りはげまし隊」として地域に住む高齢者を訪問し、絵
本の読み聞かせや紙芝居等を行い交流を図る活動



②南国市立香長中学校

香長中学校は、教育重点目標を「広い視野と豊か
な感性を育てる学校図書館教育」として学校図書館
と生徒及び教職員の実態を踏まえた積極的な取り組
みを進めている。

〈特色のある優れた実践活動〉

ア. 「自分からは図書館に来ない生徒」への働きかけ

として、学級文庫への新刊図書の積極的配架、朝
の学活前に玄関への出張図書館の実施



イ. 学校図書館を学習情報センターとして活用するため、「情報活用」の仕方の整理と付けたい力を明確化し、各教科等との連携として「調べる」図書館を目指しての取り組みを推進

(特に、教科との関連においては、生徒一人一人に一冊ずつ手元に届くよう、授業で必要な図書資料を公共図書館と連携し取り寄せるとともに、調べた内容を報告するレポート作成にも力を入れている。)

ウ. 地域との連携推進として、毎月2回の図書館ボランティアとの定例会を持ち、図書館の整備や読み聞かせ、夏休みの開館、親から子どもに薦めるクリスマス選書会等を実施

③高知県立高知西高等学校

高知県立高知西高等学校は、「HARD SPIRIT 貫徹精神」を校訓とし、学校を挙げて読書活動を積極的に推進し、日本語や英語での論理的思考力や読解力、表現力、多角的なものの見方の育成を図っている。

〈特色のある優れた実践活動〉

ア. 各教科や総合的な学習の時間、英語科の設定科目等で思考力育成を柱とし、読書や調べ学習、スピーチ、作文・小論文の指導、ロング・ホームでの集団読書等において学校図書館を活用した実践

イ. 全校生徒が高知県青少年読書感想文コンクール、大原富枝賞、全国高校生読書体験記コンクールのいずれかを選択し、夏休みの課題として実施

ウ. 学校図書館が教員にとっての学習情報センターとして機能するように学習指導案を並べ、教員が閲覧可能な環境を整備

エ. 教員（企画研修部や進路指導部）によるテーマ毎の推薦図書リストの作成及び関連図書の充実

オ. 2年次の夏休み前に「教養書学習」を実施し、志望系統やテーマ毎の推薦新書の紹介による読書活動の推進

カ. 3年次の大学入試対策用小論文指導を全教科の教員が担当し、文学、国際社会、経済・経営、教育、理学、医学、看護、福祉、農業等のテーマに分け、生徒一人一人の進路希望やテーマに応じた分野の書籍を読ませることで、読解力、論理的表現力の育成及び進路希望の実現に向けた指導を実施



④四万十市立図書館

平成6年度から市内保育所、幼稚園、小学校及び中学校（2校を除く）を巡回して定期



的に本の団体貸出を行うとともに、平成22年7月には新築された市庁舎2階フロアに新図書館としてオープンした。入口付近には絵本を集めた「お話しの部屋」を配置し、毎週日曜日に読み聞かせを行っている。

〈特色のある優れた実践活動〉

- ア. 巡回文庫として団体貸出を実施（市内保育所・幼稚園へ毎月各30冊、小学校へ毎月各50冊、中学校へ隔月60冊）
- イ. 図書館ボランティアによる読み聞かせの実施（毎週日曜日）
- ウ. ブックスタートの実施（毎月行われる10ヶ月乳児健診では職員が出向き、ボランティアとともに読み聞かせを行う。同時に絵本をプレゼントし、保護者や子どもへ読書のすばらしさ・重要性を啓発
- エ. 四万十市が生んだ郷土の“幸徳秋水”を子どもたちに知ってもらうため、常設展示室を設けるとともに、図書館施設見学時に説明
- オ. 市内中学生の職場体験学習の受入れ

⑤市原 麟一郎

高知県を代表する民話作家である市原氏は、長年にわたり記録するだけでなく、読み聞かせて伝承することが大切と本県の民話等を発掘し、民話等紙芝居を手作りし、次世代の子どもたちに語り継ぐ活動を続けている。



〈特色のある優れた実践活動〉

- ア. 昭和40年頃から県内各地をくまなく回り、民話、昭和南海地震や戦争の体験談等の聞き取りを実施
- イ. 昭和46年に「土佐民話の会」を創立するとともに月刊の機関誌『土佐の民話』を創刊し、平成24年5月現在、第489号を刊行、その間91冊の著書に千以上の民話を掲載
- ウ. 昭和57年からは、民話紙芝居を作って県内各地の保育所、幼稚園、小学校、図書館等をまわり、子どもたちへ民話を語り継ぐ活動を40年以上実施
- エ. 平成2年からの町紙の博物館と土佐民話の会で「手作り紙芝居コンクール」の開催
- オ. 平成20年からは新たな挑戦として土佐弁での民話落語の開始
- カ. 県立文学館の“こどものぶんがく室”の監修、「おはなしキャラバン」において紙芝居の上演を行うとともに、紙芝居定例会である文学館「語りと紙芝居の会」の代表を務め、語り部と紙芝居の実演者の育成に尽力

